

平成18年8月
長官官房総務課

第12回警察庁政策評価研究会要旨

1 日時

平成18年6月2日(金)午後1時から午後2時10分までの間

2 場所

警察庁庁議室

3 出席者

委員

前田 雅英 首都大学東京 都市教養学部長(座長)
妹尾 堅一郎 東京大学先端科学技術研究センター特任教授
高木 光 学習院大学法科大学院教授
田邊 國昭 東京大学大学院法学政治学研究科教授
西川 元啓 新日本製鐵株式会社常任顧問チーフリーガルカウンセラー

警察庁

安藤 隆春 官房長
巽 高英 長官官房審議官(生活安全局担当)
和田 康敬 長官官房審議官(刑事局担当)
影山 幹雄 長官官房審議官(交通局担当)
伊藤 茂男 長官官房審議官(警備局担当)
山澤 求 技術審議官
加藤 晃久 総務課情報公開・個人情報保護室長

4 議題

- (1) 平成17年政策評価実施結果報告書(案)
- (2) 実績評価書(案)

5 議事要旨

- (1) 平成17年政策評価実施結果報告書(案)について、事務局から説明の後、質疑応答が行われた。意見等の概要は以下のとおり。

有効性、効率性について、全面的によいとする評価を行ったものでない事業を継続していく場合には、より慎重に検討するとともに、説明義務をより重めに受け止めていただきたい。

- (2) 実績評価書(案)について、事務局から説明の後、質疑応答が行われた。意見等の概要は以下のとおり。

評価の結果の書きぶりは、一定の基準に従って表現を合わせた方がいいのではないか。

評価の結果は、A B C や 5 段階等達成の程度で示すことはできないか。また、定性的な評価であっても、「施策が推進された」で留まるのではなく、今後その施策をどうしていくのか（引き続き推進する、方向性は維持しつつも見直しを実施する、代替案を検討するなど。）ということについて踏み込んで書き分ければよい。

「政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報に関する事項」の所で「なし」としているものがあるが、評価の外部検証の便宜上、用いたすべての資料の出典を記載すべき。

各業績目標の実現状況が基本目標の達成にどう繋がったのか、基本目標ごとの評価ができればよい。

業績指標についてトレンドに着目して評価しているが、トレンドの変化年にも着目するなどの精緻な分析をする余地もある。

業績目標の達成が必ずしも十分でなかったものについて、その原因は何であったのかが分かれば、記載すべき。